

海外旅行って楽しい！

荒木 忠久

私の旅行は国内と東南アジアが殆どだ。

それというのも、長年の趣味である日本酒を主とした面白い酒器の蒐集を兼ねた旅だからである。かれこれ五十余年に及ぶ楽しい旅。素材も多岐にわたり、二千点程を遊び心で蒐集したものだ。これまで中国電力・N.T.T・公民館など計四回の個展で自己満足。しかし上には上の方がおられ、私など足元にも及ばず本まで出されている。ご自身の眼力とお金と時間で蒐集された努力には、敬服するばかりである。日本で唯一醸造学科を持つ東京農大の先生を訪ね、一般に開放されていない資料館を見せて頂き、またそれを絡めた冊子を頂いて、古代からの酒にまつわる歴史と共にその奥深さを学び、無量の喜びであった。

さて本題の海外旅行だが、資料館や何々展・土産物店・フリーマーケット・夜市などあらゆる所を訪ね、怪しい物を探すように目を配り、気に入った物が



ユングフラウヨッホにて

あればネゴに係る。やはり中国は奥が深い。私の旅は旅費と手続き等の手間を省くため、殆どツアーを利用して

いる。その中で時間を作り、ガイドやドライバークリップを渡し、案内をバス毎頼むこともある。私はできれば二・三件隣の店を覗く。観光客と見れば言葉巧みに寄ってくる。私は言い値の一割を目処に交渉する。一例をあげれば、瀋陽の店で一番比重の軽い宝石である琥珀の盃に目が止まり、店員に聞くと何と三千元(日本円で約四万五千円)と言う。満州鉄道のマーク入りだったが、余りにも突飛な値段にビックリする。そこで「三千元なら買う」と伝えると、出来ないと言う。では店長を呼んでと言うと、かなり渋ったが結局私に根負け。何か手触りが今一つ違う。皆さんを待たせてはいけないので、その場はバスに乗った。気になるので、後日塩水に浸けてみたが浮かばない。そこで岡山山大学理学部の先生に比重をチェックして頂いたが、やはりプラスと出た。ガスクロマトグラフィーに掛けるまでもなかった。西安・景德鎮しかり、同行の皆さんに聞くと「然もありません！」

ところで今年四月下旬、ハワイ・オアフ島へガイドなしの格安ツアーに行った。単独での行動には、かなり不安を伴った。しかし流石ハワイである。日本人へのサポートは期待以上で、先ずフロントに優先コーナリがあり、スムーズにチェックイン。そしてホテル最上階ルームへ。ワイキキビーチが眼下に広がる。また夜景の素晴らしさにも満足。一つ残念だったのは雨の中、ホテルビーチでの打ち上げ花火。しかしオアフ島一周の日帰りツアーは効率よく回ることが出来た。日本でも馴染みのバナナ「ドール」の広大な農園には恐れ入った。先見性とスケールの違いを大いに感じた。ワイキキビーチでパラソルセットを借り、サーファアを見ながら波を楽しんだ。

次の朝、ツアー会社から渡されていた乗り放題バスカードで、アラモアナショッピングセンターへ。各方面から集客され、実にパワーを感じた。

ところで今まで一番印象に残った海外旅行と言えば何と言ってもヨーロッパで、日本人にも人気の高いロマンチック街道のツアーだった。旅の一番は何と言っても天気。これだけは運を天に任せるしかない。このツアーで思ったことは、ベテラン女性添乗員によるドイツ語でのパワフルな言動。各地での折衝は実に見事であった。ドイツからスイスに入り、登山鉄道を乗り継いでユングフラウヨッホ駅に降り立ったその景色は、言葉で失うほどの別世界。まさに息を呑んだ。その信じられない光景は、まるでメルヘンの世界へ引きこまれたようだった。若い頃富士山へ登ったことがあるが、この景色は特別なプレゼントに思えた。彼女によると何度も来ているが、これ程の素晴らしい眺めは初めてだと言うほど、いいタイミングの贈り物であった。幸せのひと時に酔いしれ、迎えてくれた山岳ガイドと人懐っこい救助犬。この上ない幸せを享受した。その感動と興奮を半年後に太宰府で語り合った程である。

旅行にはそれなりにいろいろ準備が必要だが、バカでかい荷物は私には考えられない。何より大事な事は保険である。不幸にも病气や事故・トラブルに合った時、家族や周りに迷惑を掛けないように規定の旅行保険に加入しておくことをお勧めしたい。クレジットカードに添えられた保険は当てにならない。知人がハワイで体調を崩して一日入院し、請求されたのは何と三十六万！日本では信じられないことである。また私は万々に備え、いつも電子辞書とパスポートの写しとミニホイッスルをバッグに入れていた。こうしてベテラン女性添乗員の的確なサポートにより、実に楽しいツアーが体験できた。

(長崎出身岡山市在住)



風信

○十一月七日は旧暦の九月十九日「立冬」とある。之より冬の季節を迎えるという。長崎の古い行事に「之日・床に関帝の画像をかけ、福を祈る」とある。○関帝様は、長崎に入港してきた唐船の人達が伝えた説話によると「招福の賢人であるので此の像に祈ると福がくる」という。以来、唐寺崇福寺内にも唐人屋敷内にも其の像はある。特に崇福寺の関帝様は霊験があり、御佛前の供物に手を出した鼠を剣で刺したそうである。

○そして長崎の人達は、此の日に善哉(汁粉)をいただくという良い新年を迎える事ができるという。勿論この善哉、私は子供のころに戴いたし、近所にも持つて行きました。二匹の鬼をつれた関帝様の画像も床の間にかけてありました。

○十一月十四・十五の両日、恒例により名古屋の相山女学園高校の生徒さん達、井上教頭を中心に長崎学の学習に来崎。今年では三十八回になるそうである。本会では第一回以来、其の中の次の六講座を現地案内も含め担当している。一、出島・シーボルト(担当・陸門良輔) 一、キリスト教と浦上(北川のみ子) 一、長崎と中国(大田由紀) 一、長崎の石橋群(山口広助) 一、長崎の洋館(松尾憲和) 一、長崎と坂本竜馬(大東良平)

一、先日、石田孝氏来訪。「長崎に西郷隆盛は何回来られたのかとの研究がまとまったので、其の報告かたがた」との事であった。いつに変わらぬ石田氏の研究におおいに感激しながら研究発表をお聞きした。

一、兼松孝行氏来訪。父の遺品を整理していたら中に有名な「高玄岱・銅山遊記」の卷子巻があったので……との事。私達も元物を見たのは初めてで、数メートルもある長巻で巻末に岡田篤所(岡田篤)の認書が付けられていた。

一、十月に御寄贈いただいた書籍

○九州歴史資料館「研究論集42」。太宰府の成立(小田和利先生) 大野城跡再考(酒井芳司先生) 八女市遺跡研究(大庭孝夫先生) 他諸論考あり(九州歴史資料館) 大いに参考になりました。

○諫早史談会より「諫早史談49号」。大野・柳谷・芋洗谷関係文書、千々石ミゲル墓石他。史談会あれこれ等。楽しい研究論考集でした。(諫早史談会発刊ー諫早市東小路町諫早文化協会の内)

長崎歴史文化協会研究室

TEL 八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所 2F

